



壁のクロスは、はがれや破れが大きくなる前に手早く補修しておきたいものです。

■クロスのはがれ

クロスが継ぎ目から浮いたりめくれたりしたら、接着剤で貼り付けます。その際、めくれた部分の壁とクロス裏側に付着した古い接着剤やほこりなどをふき取り、よく乾かしてから新しい接着剤を塗り

壁紙(クロス)の補修はひどくなる前に

ましよう。隅の方など塗りにくい箇所には爪楊枝や小さなハケを使い、奥までしっかり塗ります。接着剤を塗ったらすぐに、めくれた壁紙を角に向かって空気を押し出すように貼り付けます。接着剤がしみ出したら固く絞った布で手早くふき取り、接着剤が乾くまではテープやピンで仮止めしておきます。

■クロスの破れ

まず同じ柄のクロスを用意します。それを破れ部分よりひと回り大きく切り、柄を合わせて破れを覆い、テープで仮止めします。次に、クロスを

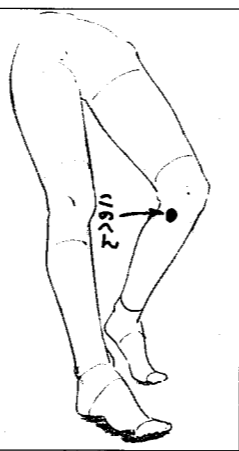
重ねたまま2枚一緒にカッターナイフで四角く切り取り、仮止めした部分は壁からはがします。最後に、破れたクロスの切り取り部分に新しいクロスの切り取り部分を貼って完成。クロス用ローラーをかけるときれいに仕上がりますよ。



編集後記 鷲足炎(がそくえん)！?

金曜日はお彼岸の中日でしたが、ちょっとやる事があって会社で事務仕事をしていました。いつもと何ら変わりない一日を終えて翌朝目が覚めると左脚に激痛が走ってまったく動けません。膝を曲げる伸ばすが痛くてできません。今まで無かった痛みです。でも腫れや熱感はない。曲げるだけが痛いわけではなく少しづつ曲げて落ち着くと痛くない。しかし今度は伸ばす時に激痛になる。動かすと痛いと言うことです。痛い場所は膝ではなく、膝の横やや下のところです。この症状をネットで調べたところほぼ全て当てはまるのが「鷲足(がそく)炎」でした。なんだそれは?初めて聞く言葉です。週明け整形外科に行き診てもらったところやはり鷲足炎との診断です。ただ1点違ったのがこの鷲足炎の主原因が「アスリートが激しい運動後になる障害で……うんぬん」とあって、アスリートでもなく、激しい運動もしていない私にな

んで??と今でも不思議でなりません。ぶつけたとか捻ったの原因もなく、何の前触れもなく、朝起きると激痛に襲われるって困ります。お医者さんに「激しい運動なんてしてません。ぶつうに寝て、起きただけなんですけど」と言ったら「夢の中で走ったりしませんでしたか?」だって(笑) なんとユーモアのあるお医者さんでしょう。私も負けじと「そう言われれば走ったかも知れません」と応戦しました。特に固定や湿布などせず、お薬を3日分処方され、なるべく安静にして下さいという言いつけを守っていたら翌日には歩けるようになりました。初めての鷲足炎でした。(松崎)



『ゆ・めーる』2022年10月号
発行 松崎建設株式会社
代表取締役 松崎 幸平
121-0816 東京都足立区梅島3-31-13
TEL: 03(3349)0182 FAX: 03(3349)0206



ゆ・めーる

第137号

念願の奄美で亡き父を偲ぶ

今年の夏季休暇は9月の二級建築士の製図試験にむけ、勉強に全ての時間を費やしていましたが、無事試験も終わり結果を待つのみになったので、少し遅めの夏休みを貰い念願だった奄美大島に行ってきました。なぜ念願かという実は4年前の2018年9月15日に友人の結婚式で奄美大島に行く予定がありましたが、その結婚式の2日前に父が急逝し、やむなく結婚式出席をキャンセルし、奄美大島行きも中止になっていたからです。

父は喜界島で生まれ、小学校卒業まで奄美大島で育ちました。亡くなる直前のお盆に帰省した時、父に奄美大島に行くことを伝え、父が通った学校やその周りの風景を写真に撮って見せると約束しました。父は懐かしい故郷の風景が見られると大変喜んでいましたが、とうとう父に写真を見せてあげることが叶いませんでした。病床にあった父の喜ぶ顔が見たくて、故郷の風景を届けるといふやさやかな親孝行が叶わなかったことが心残りでした。仕事の都合などもありなかなか行けずにはいましたが、無事試験も終わりようやく念願が叶いました。青い空、透き通る海を期待していた奄美大島の天気は折からの台風の直撃を受け、大荒れでした。全4日のうち2日半は暴風雨という最悪のコンディションでした。本場の台風はハンパない!

父は小学校を奄美内で転校していたので二つの学校にお邪魔しましたが、当然中に入るわけにはいかず校門の前と周りの風景を写真に撮る予定でした。最初にお邪魔した佐仁(さ)小学校は初日で晴れていたため南国感たっぷりの外観を撮影することができました。

2日目の伊津部(いつぶ)小学校は台風ど真ん中でお邪魔することになってしまいました。激しい風のなか学校を撮影していると、よほど怪しく感じたのか台風養生をしていた学校の先生方が話しかけてくださいました。父の母校を撮影しに

きたことを伝えると先生の口から衝撃の事実が……。なんと父が卒業してから10年ほどして校舎を建替えていて、今の校舎は父が通っていた校舎とは異なるとのこと。『なんてこった……(笑)』私が少し肩を落としたことに先生方は気づいたのか、学校で一番古株



という校長先生をわざわざ呼んでくださいました!校長先生はしばし考えて『正門までのレンガ塀は建替える前からあって、積み方も変わっているし、毎日通るところだから、お父さんも懐かしく感じるんじゃないかなー』とのこと。強い風の中、当時の面影が残っていないか一生懸命考えてくださっている様子を見て、こんな先生方に学べる子ども達は本当に幸せだな、なんてほっこりしながら撮影させて頂きました。さらに『校舎内は入れませんが、校庭の中も見ていただいて結構ですよ』と親切にご対応頂いたので遠慮なく少しの時間見学をさせて頂きました。文字数の都合もあるので、全てお伝えすることはできませんが、飲食店やお土産屋の方々など、接して頂いた方すべての人の親切さが強く印象に残りました。気さくに話しかけてくれる方が多いのは、島民の気質なのでしょうね。

わずかな時間しか楽しむことはできませんでしたが、父の育った故郷は海も山もとても美しく心に残りました。今年の年末は父の墓前に良い報告が出来そうです。(喜禎)

